全体像をつかむ

データの種類の選び方

アイテム情報を追加するときに選ぶ「データの種類」は、じつは「入力の形」を決めるだけの設定ではありません。あとで nanco に何をしてもらえるかが、ここで決まります。

このページの内容

01 なぜ「種類選び」で後がラクになるのか
02 早見表：種類ごとに「できること」
03 6つの種類と、選ぶメリット
04 迷ったらこう選ぶ
05 具体例：1つの商品でいろんな種類を使う
06 よくあるご質問
07 次のステップ

最新の内容はWebで確認できます

help.nanco.io/quickstart-guide/data-types

最終更新 2026年11月12日

たとえば「絞り込む」「並べる」「合計する」「自動で入力する」「スキャンで探す」ができるかどうかは、種類の選び方しだいです。最初に正しく選んでおくと、データが増えてからの作業がぐっとラクになります。

まず結論

迷ったら「**あとでこのデータをどう使いたいか**」で選んでください。
合計したい・並べたい → **数値**／日付で管理したい →**日付**／決まった選択肢から選びたい →**セレクト**／金額として扱いたい → **値段**／バーコードで探したい → **バーコード**／それ以外の自由なメモ → **テキスト**。

なぜ「種類選び」で後がラクになるのか

いちばんよくある失敗は、なんでも「テキスト」で入れてしまうことです。テキストは何でも入りますが、nanco から見ると「ただの文字」になります。**並べる・合計する・絞り込む**を活かすには、データに合った種類を選ぶのがコツです。具体例で見てみましょう。

賞味期限を入れたい

テキストにすると：日付の順に並べられず、期限が近いものを探しにくい。表記もバラバラ（2026/1/15・2026年1月15日…）。

「日付」にすると：カレンダーから選ぶので打ち間違いが減り、**古い順に並べ替え**できます。期限管理がラクに。

卸価格を入れたい

テキストにすると：合計金額が出せず、出荷・入荷のときに単価としても使えない。

「値段」にすると：金額として**合計**でき、出荷・入荷の伝票に**単価が自動で入ります**。

在庫の状態を入れたい

テキストにすると：「在庫あり」「在庫有り」「あり」が別物になり、うまく絞り込めない。

「セレクト」にすると：選択肢から選ぶので表記がそろい、**状態で絞り込み**できます。設定画面では選択肢ごとの使用件数も確認できます。

このように、種類を正しく選ぶ＝**あとで使える機能が増える**ということです。

早見表：種類ごとに「できること」

それぞれの種類で、あとからできるようになることの目安です。

データの種類	絞り込み	並べ替え	合計・集計	自動入力	スキャン	小
テキスト	△	△	×	×	×	
数値	○	○（数の大小）	○	—	×	○（
日付	○	○（日付順）	—	—	×	
セレクト	◎	○	△（設定で選択肢ごとの使用件数）	—	×	
値段	○	○	○（見られる人だけ）	○（出荷・入荷の単価）	×	
バーコード	○	○	—	—	◎（アプリ）	

この表の見方

◎＝とくに得意　○＝できる　△＝できるが向いていない　×＝できない　—＝その種類では使わない。テキストはキーワード検索で見つけられますが、表記がそろわないと、選択肢のような正確な絞り込み・集計には向きません。

6つの種類と、選ぶメリット

1つずつ、「**こんなときに選ぶ**」と「**選ぶとできるようになること**」を見ていきましょう。

数値

こんなときに選ぶ：個数・重さ・長さなど、数えたり量ったりするもの（例：`24`）。
選ぶとできるようになること

- **フォルダごとに合計**が自動で出る（例：棚ごとの総重量）。
- **数の大小で並べ替え**できる（多い順・少ない順）。
- しきい値を下回ったら知らせる在庫アラートや、レポートでの集計に使える。

> **追加設定：小数**
>
> 「小数点以下を表示する」をオンにすると `12.5` のような小数も入れられます。長さ・重さ・面積など、個数で数えられないものに便利です。

日付

こんなときに選ぶ：賞味期限・入荷日・発売日など、日付で管理したいもの（例：`2026/01/15`）。
選ぶとできるようになること

- **カレンダーから選ぶ**ので、打ち間違いや表記のばらつきがない。
- **日付の順に並べ替え**できる（期限が近い順など）。
- 「いつのものか」で絞り込み・管理がしやすくなる。

セレクト

こんなときに選ぶ：状態や分類など、**決まった選択肢から選ばせたい**もの（例：在庫あり／在庫なし）。
選ぶとできるようになること

- **表記がそろう**：「在庫あり」「在庫有り」のような表記ゆれが起きない。
- **選択肢を選ぶだけで絞り込める**。
- 設定画面で、**選択肢ごとの使用件数**を確認できる。

> **追加設定：選択肢**
>
> 選んだあとに、選択肢（「在庫あり」「在庫なし」など）を用意します。選択肢は**あとからでも増やせます**。まとめて追加することもできます。

値段

こんなときに選ぶ：売値・仕入値など、**金額**として扱いたいもの（例：`100`円）。
選ぶとできるようになること

- **金額として合計**できる（在庫の評価額など）。
- 出荷・入荷のときに**単価が自動で入る**。詳しくは出荷・入荷の単価を自動入力。
- 権限の設定で、メンバーごとに**金額を隠す**こともできる。

追加設定：価格の用途

値段を選んだら「価格の用途」を**未設定・販売価格・仕入価格**から選びます。「未設定」のままでも使えます。「販売価格」か「仕入価格」にしておくと、出荷では販売価格、入荷では仕入価格が単価として自動入力されます。

テキスト

こんなときに選ぶ：自由なメモや備考など、**上のどれにも当てはまらない自由な文字**（例：良好、担当メモ）。
選ぶとできるようになること

- 何でも自由に入力できる。補足やメモに向いています。
- **入力した文字はキーワード検索で見つけられる**（商品名・メモなど、含まれる言葉で探せます）。

数・日付・選択肢はテキストにしない

数値・日付・決まった選択肢は、専用の種類を選びましょう。そうすれば合計・並べ替え・集計までそのまま活かせます。テキストはキーワード検索では見つかりますが、こうした集計には向きません。「とりあえずテキスト」にすると、あとで選び直す手間が増えます。

バーコード

こんなときに選ぶ：商品のバーコード番号（JANなど）を持たせたいもの（例：`1234567890123`）。
選ぶとできるようになること

- スマートフォンアプリで**バーコードを読み取って検索**できる。
- 読み取りでの棚卸しがスムーズになる。

迷ったらこう選ぶ

入れたいデータを思い浮かべて、上から順に当てはめてみてください。

- 金額（売値・仕入値）？ → **値段**
- 数える・量る（個数・重さ・長さ）？ → **数値**
- 日付（期限・入荷日など）？ → **日付**
- 決まった選択肢から選ぶ（状態・分類）？ → **セレクト**
- バーコードで探したい？ → **バーコード**
- どれにも当てはまらない自由なメモ？ → **テキスト**

具体例：1つの商品でいろんな種類を使う

ふつう、1つのアイテムにはいろいろな種類のアイテム情報が混ざります。たとえば食品なら、こんな組み合わせになります。

- 賞味期限 → **日付**
- 入数（1箱の個数） → **数値**
- 保存方法（常温／冷蔵／冷凍） → **セレクト**
- 卸価格 → **値段**（用途は仕入価格）

- JANコード → **バーコード**
- 備考 → **テキスト**

こうしておくと、「冷蔵のものだけ絞り込む」「賞味期限が近い順に並べる」「卸価格の合計を見る」「アプリでスキャンして探す」が、すべてそのまま使えます。

よくあるご質問

あとから種類を変えられますか？

はい、変えられます。最初から完璧に選ぶ必要はありません。種類を変えると、できるかぎり今のデータを引き継いで変換します（ただし、合わない組み合わせでは値が空になることがあります）。まずは近いものを選んで、使いながら調整して大丈夫です。

「数値」と「テキスト」はどう違いますか？

どちらも数字を入力できますが、**数の大小での並べ替えや合計ができるのは「数値」（と「値段」）**です。テキストは「ただの文字」として扱われます。数として計算したり大小で並べたいときは「数値」を選びましょう。

「値段」と「数値」はどう違いますか？

どちらも数字ですが、「値段」は**金額専用**で、出荷・入荷の単価としての自動入力や、権限による金額の非表示など、お金ならではの機能が使えます。金額は「値段」を選びましょう。

セレクトの選択肢は後から増やせますか？

はい、あとからいつでも追加できます。最初に思いついた分だけ入れておき、必要になったら足していけば大丈夫です。

次のステップ

選び方が分かったら、実際にアイテム情報を追加してみましょう。

アイテム情報を設定する →
アイテム情報の追加・編集・並び替え・削除の手順を一通りまとめています。

出荷・入荷の単価を自動入力 →
「値段」と価格の用途を設定すると、伝票の単価が自動で入ります。

在庫アラートを設定 →
「数値」のしきい値を使って、在庫が少なくなったら通知を受け取れます。